

資料3

『地域の学校教育のあり方を考える会』

1. 現状のまま、頑張れないか
2. 通学時間、通学方法について
3. 人間関係、心のケア体制について
4. 町財政と学校の建設について
5. 地域に学校がなくなること

『地域の学校教育のあり方を考える会』

1. 現状のまま、頑張れないか

1. 現状のまま、頑張れないか

第5回のワークショップでの意見

■現状のままがもちろんいい、もう少し辛抱して現状で

①町で教員を雇うことはできないか。

②小規模でも、生徒が学習面、部活動面で頑張っている学校がある。

③小規模校でも充実した教育活動が行えるのでは。

④今の状態で頑張れないか、もう少し工夫すれば、なんとかいい方法も見いだせるのではないか

①町で教員を雇うことはできないか

【明石市】

令和3年度から全市立中学校（12校）1年生「35人学級」へ

【目的】

- ・ いじめや不登校など問題行動が増える中1ギャップの解消
- ・ きめ細やかな教育環境の整備

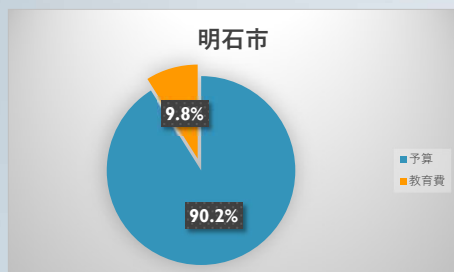
【予算】

教職員**14人**を加配する経費 **9,150万円**を計上（**650万円/人**）

- ・ 臨時的任用教職員（正規職員の定員に欠員が生じた場合など）
- ・ 会計年度任用職員（時間的制約の中で勤務 週15時間勤務など）

①町で教員を雇うことはできないか

全体予算に占める教育費の割合を比較すると、



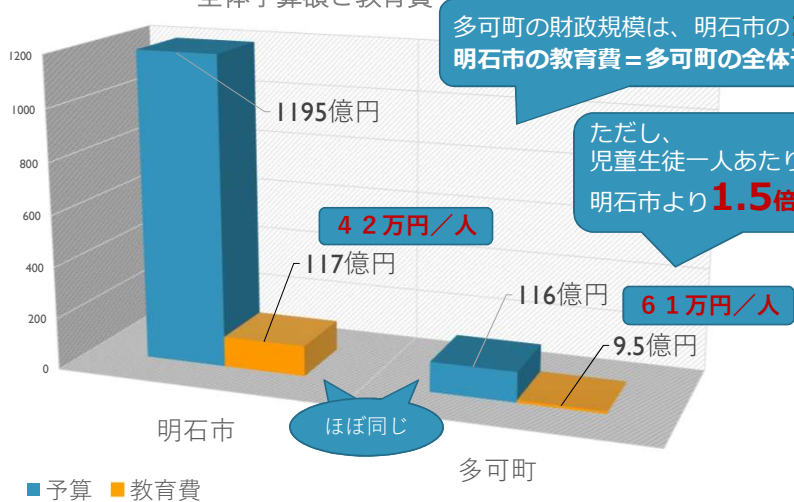
同じ水準であることがわかります。

①町で教員を雇うことはできないか

全体予算額と教育費を比較すると・・・、

①町で教員を雇うことはできないか

全体予算額と教育費



①町で教員を雇うことはできないか

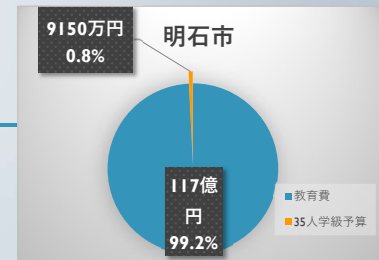
明石市と同水準で予算を獲得した場合

$$0.915\text{億円} \div 117\text{億円（教育費）} = \mathbf{0.8\%}$$

$$\text{多可町}9.5\text{億円} \times 0.8\% = 0.076\text{億円（760万円）}$$

明石市を参考に、臨時的任用教職員一人あたり650万円とすると、

$$\text{多可町では、}760\text{万円} \div 650\text{万円} = \mathbf{1.17\text{人採用}}$$



①町で教員を雇うことはできないか

多可町独自予算での取組状況

令和3年度 町費負担教職員予算

- ①学習支援員（授業補助、個別指導等）
- ②スクールアシスタント等（児童支援）
- ③スクールサポートスタッフ（事務的な補助）
- ④ICT支援員（情報化支援）
- ⑤学校園アドバイザー
- ⑥適応教室指導員
- ⑦小学校英語教育充実事業（地域人材を活用）

7,172万円

71人
8.8人/校
配置

多可町の教育費9.5億円の、**7.5%**を教員のサポートに充てています。

②小規模でも、生徒が学習面、部活動面で頑張っている学校がある

「県内の中学校で、小規模だが陸上の全国大会出場者が多い学校があります。」と伺いました。

②小規模であっても、生徒が学習面、部活動面で頑張っている学校がある

比較的
近い

【由良中学校の状況】

学級	生徒数	備考
1年生	12	2019
2年生	18	
3年生	16	
合計	46	

令和15年度
八千代中と同規模

【由良小学校の状況】

学級	児童数	備考
1年生	10	2019
2年生	14	
3年生	14	
4年生	15	
5年生	10	
6年生	16	
合計	79	

令和9年度
杉原谷小と同規模

【学校運営状況】

- ・小中学校間は1km以内
- ・小中連携
- ・小中合同体育会を開催

【地理的要件】

最も遠い集落からの距離、
洲本市畑田組～由良中 13km
洲本市畑田組～洲本中 23km

※洲本中との統合は地理的に
難しいようです。

②小規模であっても、生徒が学習面、部活動面で頑張っている学校がある

	2016		2021
部活動	野球部	→	-
	陸上部		陸上部
	美術部		美術部
	卓球部		卓球部
	吹奏楽部		吹奏楽部

- ・運動部は、陸上部と卓球部
- ・文化部は、吹奏楽部と美術部

※2020年度は、男子砲丸投げと女子100mで全国大会出場

「子どもたちにとって望ましい教育環境」が実現できるかどうか。

③小規模校でも充実した教育活動が行えるのでは

小規模校のメリット・デメリット



昨年度まとめた

「子どもたちにとって望ましい教育環境」が
実現できるかどうか。

③小規模校でも充実した教育活動が行えるのでは

	メリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ●児童・生徒の一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい。 ← 一人一人にきめ細やかな丁寧な指導 ●学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ●児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ← 児童生徒が協力し合える ●異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ← 児童生徒が協力し合える
学校運営面	<ul style="list-style-type: none"> ●全職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ●学校が一体となって活動しやすい。 ← 児童生徒が協力し合える
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。 ●保護者や地域社会との連携が図りやすい。 ← 顔の見えるPTA ●災害発生等による緊急避難時に混雑が生じにくい。

※青色部分は、本会の「子どもたちにとって望ましい教育環境」に該当する項目

③小規模校でも充実した教育活動が行えるのでは

	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ●多様な考え方に触れる機会や学びあい、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ← いろいろな価値観に触れる、いろいろな個性と出会える ●ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。 ●学校行事等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ← 大勢での集団活動 ●中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ← 専門的な指導 ●児童・生徒数、教職員数が少ないため、多様な学習・指導形態をとりにくい。 ← 充実した学習活動が保障される
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ●部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。 ← 選択できる部活動 ●クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ← クラス替えができる ●集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ●切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。

※赤色部分は、本会の「子どもたちにとって望ましい教育環境」が実現しづらい項目

③小規模校でも充実した教育活動が行えるのでは

デメリット	
学校運営面	<ul style="list-style-type: none"> ●組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。 ●教職員数が少ないため、バランスのとれた教職員配置を行いにくい。 ← 多くの教員で多くの価値観での指導、教員が余裕を持って児童生徒に関われる ●学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ●一人に複数の校務分掌が集中しやすい。← 教員の『働き方改革』が実現できる ●教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。 ← 教員が余裕を持って児童生徒に関われる
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。 ●P T A活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい。

※赤色部分は、本会の「子どもたちにとって望ましい教育環境」が実現しづらい項目

③小規模校だから充実した教育活動が行えない訳ではないのでは。

【まとめ】

「デメリット」には、「子どもたちにとって望ましい教育環境」が**実現しづらい項目が多く見られます。**

小規模校では、児童・生徒が少ないこと、教職員が少ないことにより、行事や環境整備、安全な通学、部活動などの面で、それを補うために、**地域の協力が不可欠です。**

④ 今の状態で頑張れないか、もう少し工夫すれば、
なんとかいい方法も見いだせるのではないか。

(1) 小規模特認校制度について

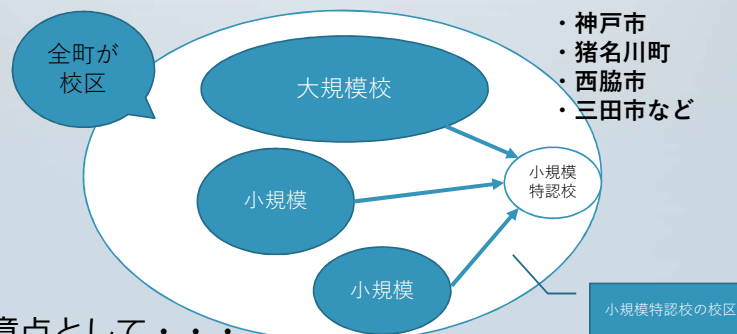
(2) 山村留学制度について

(3) 小中一貫教育について

④ 今の状態で頑張れないか？

(1) 小規模特認校制度について

○ 児童生徒が少ない学校に、町内全域から通学を認める制度



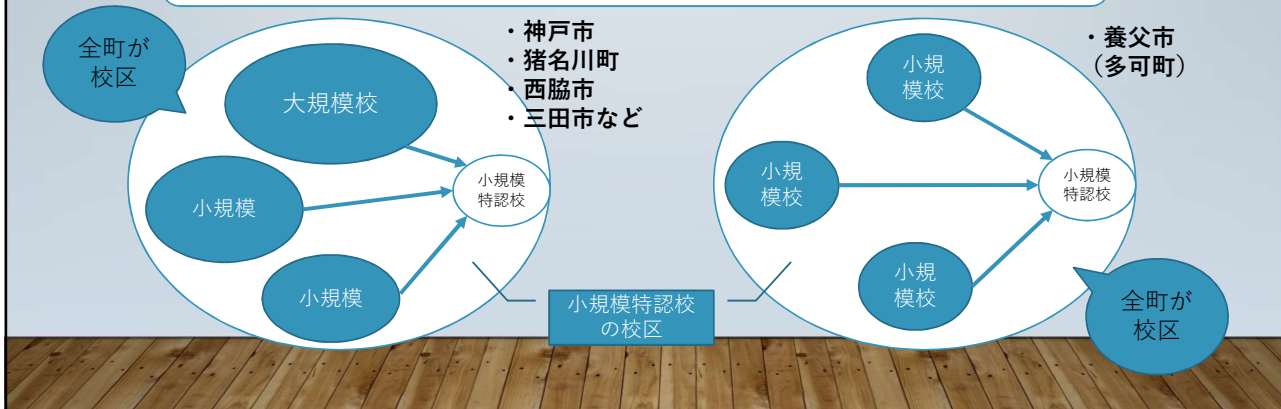
④今の状態で頑張れないか？

小規模特認校制度の注意点

※この制度は、

○対象範囲が町内なので、小規模校ばかりだと児童生徒の取り合いになる。

○町内に比較的大きな学校がある場合に有効な制度。



④今の状態で頑張れないか？

(1) 小規模特認校制度について

【西脇市 双葉小学校】

【現状】

- ・児童数31人（地元14人 地元以外17人）4クラス（複式学級あり）
- ・地元児童よりも、**小規模特認制度を利用した児童の方が多くなっている。**
- ・令和3年度新入生0人

【経緯】

- ・**地域の強い要望により存続している。**平成19年度から小規模特認校制度を導入、例年2～3人を受け入れてきた。平成25年度スクールバスを導入してから年々増加

【地域の関わり】

- ・運動会などの行事、田植えや稲刈りなどの農業体験

【今後】

- ・西脇市全体で学習環境規模適正化推進会議が立ち上がり、学校の適正規模について議論を開始している。

④今の状態で頑張れないか？

(1) 小規模特認校制度について

【養父市 建屋（たきのや）小学校】

【現状】

- ・児童数43人（地元29人 地元以外14人）5クラス（複式学級あり）
- ・**全体の1／3が小規模特認制度を利用した児童。**
- ・複式学級の解消を進めたい。

【経緯】

- ・平成17年度に2小学校を統合し、平成30年度から小規模特認校制度を導入。
- ・特色として「英語」と「演劇」に力を入れている。10人乗り送迎あり。

【地域の関わり】

- ・地域の活性化、地域協働活動、子育てサークルの施設利用、農作業体験など

【今後】

- ・**地理的な要因から、これ以上の統合等の再編の動きはない。**

④今の状態で頑張れないか？

(2) 山村留学制度について

○都市からの山村留学生を受け入れ、地元の学校に通いながら様々な体験活動を行う里親制度

【神河町での取り組み】

越知谷第1、第2小学校で平成4年度から取り組み開始。
平成19年度から「公益財団法人育てる会」に委託。
令和2年3月閉校とともに終了

④今の状態で頑張れないか？

(2) 山村留学制度について

【神河町 越知谷小学校】（令和2年3月閉校 神崎小学校へ）

【閉校直前（令和元年度）の現状】

- ・児童数30人（地元19人 山村留学生11人）

【経緯】

- ・**地域の強い要望により存続。**平成4年度から山村留学制度を導入、平成18年度までで62人を受け入れ、閉校まで100人を超える留学生を受け入れてきた。

【地域の関わり】

- ・里親方式 ホームステイ先として地元で受け入れ

【閉校】

- ・令和2年3月で閉校。神崎小学校へ編入。
- ・**地元の高齢化や世代交代により、受け入れ先を探すことが難しくなっていた。**

④今の状態で頑張れないか？

(3) 小中一貫教育について

■小中一貫教育とは

小学校と中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育です。

【取り組み事例】

- ・学習面や生活面のルール統一。
- ・中学校教員が小学校へ乗り入れ、より専門的な授業を展開する。
- ・学校行事等の合同実施や異学年が相互に参加して授業を展開する。
- ・地域行事への合同参加。（地域住民との連携を図る）

④今の状態で頑張れないか？

(3) 小中一貫教育について

■近隣の小中一貫校

	小野市立河合小中学校	養父市立関宮学園（小・中学校）
開始年度	平成27年度	令和2年度
施設の状況	改修 施設隣接型	改修 施設隣接型
児童・生徒	小学226人、中学127人	小学132人、中学59人
クラス数	小学10学級、中学4学級	小学校6学級、中学校3学級
部活動	6種目 野球、サッカー、男子テニス、女子バレー、女子卓球、吹奏楽	5種目 野球、男子バスケ、女子バスケ、吹奏楽部、女子バレー（休部）

小野市教育委員会
今後10年間は児童生徒数を維持できる。

養父市教育委員会
地理的な条件で統合は難しい。
全て単学級。縦の繋がりを重視。

『地域の学校教育のあり方を考える会』

2. 通学時間、通学方法について

2. 通学時間、通学方法について

多可町小中学校規模適正化基本方針では、

○通学距離

中学校は、徒歩および自転車により**概ね6 km以内**とします。
ただし、6 kmを超える場合には、バスなどの通学手段を検討します。

小学校は、徒歩により**概ね4 km以内**とします。
ただし、4 kmを超える場合には、バスなどの通学手段を検討します。

2. 通学時間、通学方法について

多可町小中学校規模適正化基本方針では、

○通学時間

通学時間については、小学校、中学校ともバス等を利用する場合も含めて、概ね30分～60分程度になるように配慮します。

2. 通学時間、通学方法について

【現状】

- ・ 路線バスを利用しています。
(杉原谷小学校、八千代小学校、加美中学校)
- ・ 利用料は町が負担しています。

2. 通学時間、通学方法について

それぞれの中学校を目的地として、通学時間をシミュレーションします。

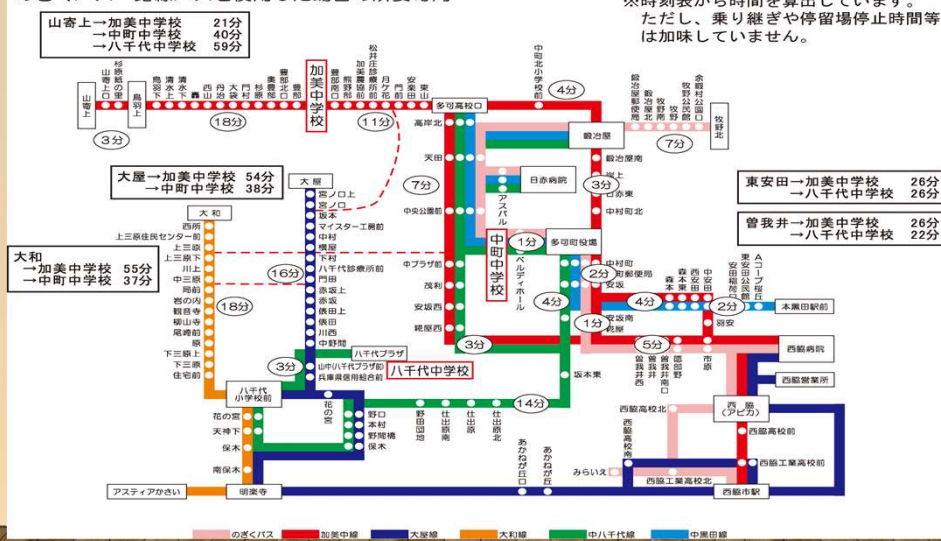
【設定条件】

- 既存の路線バスルートを利用します。
- 路線バスの運行時間を参考にします。
- 乗り継ぎや停留所での停車時間等は含んでいません。

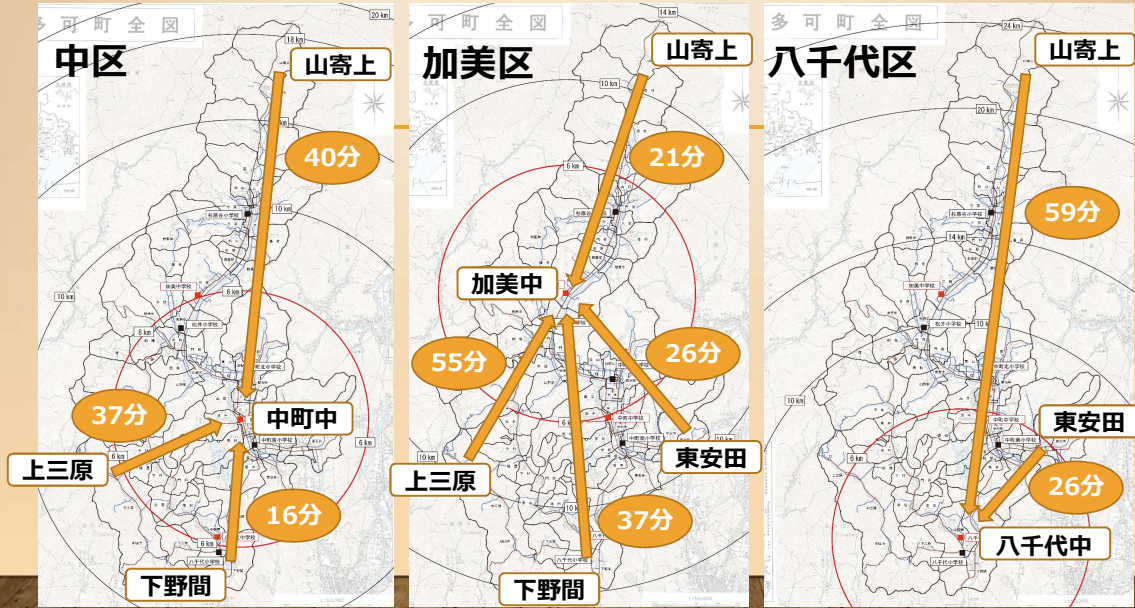
既存のルートと所要時間

のぎくバス・路線バスを使用した場合の所要時間

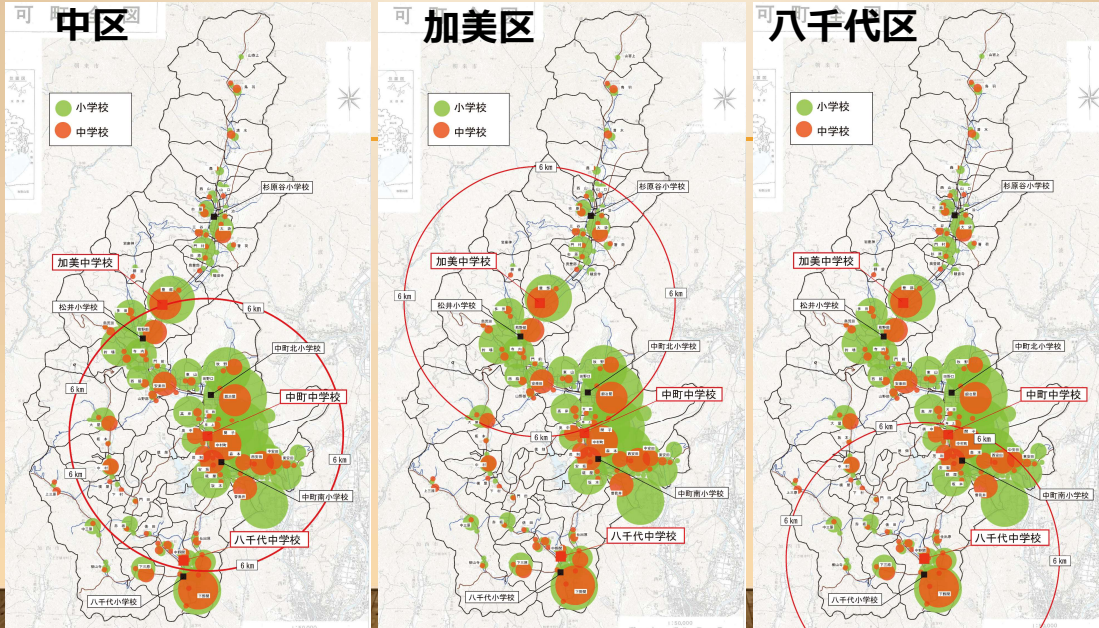
※時刻表から時間を算出しています。
ただし、乗り継ぎや停留場停止時間等は加味していません。



各区ごと通学時間



児童生徒の集落別分布図



2. 通学時間、通学方法について

**具体的な通学方法については、統合準備委員会
において協議します。**

【課題解決に向けて】

- ・安全安心な通学を最優先に。
- ・できる限り通学時間に格差が生まれないように。
- ・公共交通（バス）を活用しながら、スクールバスも検討する。
- ・通学は、統合中学校の場所決定について重要な要因。

『地域の学校教育のあり方を考える会』

3. 人間関係、心のケア体制について

3. 人間関係、心のケア体制について

令和2年4月

多可町いじめ防止対策改善基本計画の策定

3. 人間関係、心のケア体制について

いじめ防止対策に向けた3つの視点

- ①未然防止の取組
- ②早期発見・早期対応の取り組み
- ③教員が抱えている業務や行事に関する負担軽減に向けた取り組み

③教員が抱えている業務や行事に関する負担軽減に向けた取り組み

【スタッフの確保】

- ・OBや地域人材にお願いして、多くのスタッフで指導する。
- ・一人一人の教員の事務負担を軽減。
- ・教員が、子どもたちと向き合える時間を確保する。

③教員が抱えている業務や行事に関する負担軽減に向けた取り組み

【町独自のスタッフ】

- ・ 学習支援員（授業の補助、個別指導）
- ・ スクールアシスタント（指導支援）
- ・ スクールサポートスタッフ（事務補助）
- ・ 適応教室指導員（不登校児童生徒支援）
- ・ スクールラブ など

③教員が抱えている業務や行事に関する負担軽減に向けた取り組み

【関係機関との連携】

- ・ 子育て・学校園サポートチームの設置（臨床心理士等）
- ・ スクールカウンセラー配置（教育委員会）
- ・ スクールソーシャルワーカーの設置（教育委員会）
- ・ スクールロイヤー（特に子どもの権利擁護を理解した適切な弁護士）の導入

③教員が抱えている業務や行事に関する負担軽減 に向けた取り組み

【授業や行事の見直し】

- ・ 17時以降の電話を音声アナウンスへ切り替える。
- ・ 印刷機の高性能化（カラー化、自動ホッチキス）
- ・ 動物飼育の縮小
- ・ 行事写真の業者によるインターネット販売

③教員が抱えている業務や行事に関する負担軽減 に向けた取り組み

教員が、

子どもたちと向き合える時間を確保する。

『地域の学校教育のあり方を考える会』

4. 町財政と学校の建設について

4. 町財政と学校の建設について

例えば、統合中学校の基礎資料（参考：令和8年度）

	生徒数			統合	クラス数	備考
	中区	加美区	八千代区			
1年生	69	40	29	138人	4学級	
2年生	61	50	31	142人	4学級	
3年生	75	51	40	166人	5学級	
合計	205	141	100	446人	13学級	

令和3年4月1日データより

4. 町財政と学校の建設について

例えば、統合中学校の基礎資料（参考：令和8年度）

多可町立統合中学校（イメージ図）

◆1学年4～5学級・・・13学級

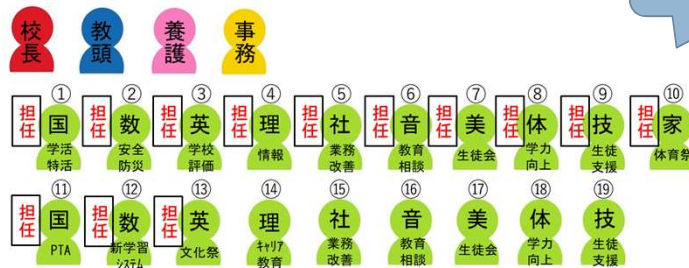
教職員定員配当方針により「教頭及び教諭等」20名 計20名

校長1名 教頭1名 教員19名 養護1名 事務1名 計23名

教科・・・10教科（国語、数学、英語、理科、社会、音楽、美術、体育、技術、家庭）

定員

10教科に二人ずつ
の教員の配置できる



4. 町財政と学校の建設について

近隣中学校（小中学校の後期）の開校時の生徒数

【丹波市】山南地区統合中学校	R5	256人	8クラス
【加東市】東条学園小中学校	R3	174人	6クラス
【加東市】社校区小中学校	R7	413人	12クラス

【例えば】多可町の場合	R8	446人	13クラス
	R15	244人	8クラス

4. 町財政と学校の建設について

近隣の施設整備予算

【丹波市】	山南地区統合中学校	(新築)	約30億円
【加東市】	東条学園小中学校	(新築)	約37億円
【加東市】	社校区小中学校	(増改築)	約64億円
【多可町】	多可町本庁舎	(新築)	約27億円

4. 町財政と学校の建設について

- ①新校舎の建設は、将来必要な事業として計画しています。
- ②**合併特例債**や**過疎債**、文部科学省や農林水産省、経済産業省などの補助金を活用し、財政にやさしい建設計画を検討します。

学校統合については、十分な議論、みなさんの意見を優先し、合意形成を丁寧に進めていきます。

『地域の学校教育のあり方を考える会』

5. 地域に学校がなくなること

5. 地域に学校がなくなること

○跡地活用について

【決定方法】プロポーザル方式

町が示した方針に基づき、事業希望者が施設の活用方法を提案し、町で審査する。

【審査の目線】

地域の活性化と振興が期待され、その継続性を含め、施設全体をどう活用するのかに着目

5. 地域に学校がなくなること

①八千代北小学校

事業者 株式会社 広藤洋行 (ひろふじようこう)

事業内容 もみ殻の再利用製品の製造

※「いらないもの」を「有益な資源」に変え、農村地域の循環型社会に寄与する事業を展開。

5. 地域に学校がなくなること

①八千代西小学校

事業者 NPO法人 エスポルト

事業内容 就労継続支援B型事業所

※障害者総合支援法に基づく、軽作業など就労訓練を行うことができる福祉サービス

※グランドゴルフ場の運営・管理

5. 地域に学校がなくなること

跡地活用については、

施設・建物が所在する集落へ打診



多可町内を対象に活用計画を募集



全国を対象に活用計画を募集